

# ミオヤの光

## 御慈悲の巻

- 1、至心信樂欲生我國乃至十念
- 2、ミオヤの賜を捨る勿れ
- 3、聖き御むねの我心に顯ん事を折り玉へ
- 4、理想、希望、制裁
- 5、人間界はミオヤの學校である
- 6、佛心と煩悶心
- 7、信心の月影こよひは何日頃に候や
- 8、衣裡の寶珠
- 9、不退轉
- 10、ミオヤの慈悲に打ちまかせて
- 11、念佛念法念佛

## 至心信樂欲生我國乃至十念

盡十方無碍光のなかにあることを信する親愛なる教友までにまうす。

人はみな其本源身體精神も共に法身如來藏より稟たりこれを佛性といふ。人々みな心性は彌陀の法身を根底としながら肉體と共に心も吾我の執著と罪惡の皮敷を被ること譬へは鑽石の中に金性のあるごとくなり。人々佛性を具備すると共に罪惡も必然的に具有したり。この罪惡の皮を除き去りて彌陀の法身より稟たる自己の眞性を顯現することは是自己の力の及ばざる處なり。いかにして

二

元來賦與せられたる佛性を發顯することを得るとなれば彌陀の聖旨なる本願を仰て信じ彼恩寵に依りて解脱し靈化するの外他に道なるなし。彌陀の本願といふは即ち彌陀の意志なり。あなたの聖旨は法界に普く滿渡たりて常に衆生の信仰心に感應して解脱し靈化せしむる處の勢力なり。あなたの聖旨は處として在らざるなく活動せざる處なきを信仰なき人々は虚ふく風とまでもおもはでむなしく明し暮らして冥より冥に入ることにてぞある。讚に彌陀の身心は徧法界映現宛生心想中是故勸汝常觀察といふころはあなたの眞身と智慧のころとは形ちこそなけれ何れの處にと實在していまさぬ處こそなけれ徧ねくみちわたる處の眞身なれば人々の心想の中に映現するのであるけれども衆生自分信仰の水すまざればこれを知らずして居るのである。能くよく深くころを留め神を凝らして觀るときはあなたの眞身の中にもとより住る我身にしておあなたの智慧と慈悲とにつままれたる己がころなることがたしかに意識せらるゝのである。

いかに意を用てあみだ如來の身心の中なる我身なることを認かに意識せらるのであらうと問はゞ聖の本願の文に

至心信樂欲生我國乃至十念若不生者不取正覺と云々。上の三句を安心の三心といひ次の乃至十念を起行の念佛といふのである。最も信者の安心起行にして大事のことにてあり。

一

三

## 四

至心とは導師は眞實心と釋し眞實心はもと佛性として自己の根底に潜みて居るけれども我てふ迷に覆はれて人は虛假雜毒の非眞理なるこゝろとなれり。いま燃陀の聖名によりて我の迷なること覺たるとき眞實心を引おこしてたまはるあなたの聖旨は純粹なる眞理のみなれば我をすてゝ聖旨にしたがふとき眞實心は顯はれるのである。

虛假雜毒の心にて自分可とおもふはあなたの聖旨を信じ得ざる故である。あなたの聖旨をうれば我てふ迷の雲はれて眞實の心の顯はるゝのである。

我執よりおこるこゝろ虛假非眞理にて聖旨より顯はるものは眞實心にてありあなたは眞理なり非眞理はあなたの反對なるものなり。次に信樂とは信とは深くあなたの聖旨を信仰して疑はず樂とは深く信順してそむかざる計りでなく信樂といふは深くあなたを愛樂するこゝろなり。一切の萬物の中に於て最も深くあなたを愛するなり。我身よりもいのちよりもすべての物よりもあなたを愛するのである。あなたを愛するは自己の眞心を愛するのでありあなたを愛するが故にたとへ肉體と生命とは失ふともあなたを愛するときは此精神をあなたの眞生命の中に我を愛し攝取したまふて無限の光と壽とに同化したまふと吾人は信じます。

人ありて汝若し彌陀を信ずるを捨てざれば汝は生命を失ふべし

## 五

と云はゞ余は喜んで生命を失ふとも信仰を捨るに忍びず。其ゆゑは眞生命と肉の生命とは換ること能はざればなり。誰かは一の土地と無價の金剛石と換るものあらん哉。

又一切の萬物は悉く彼の佛の有なり。故に彼に愛し彼に攝せられぬれば萬物は自己の所有となればなり。また我は全體を愛するが故にあなたを愛す。すべての萬物全體は唯ひとり絶對なる阿彌陀佛のみ故にすべての物にこえてひとりあなたを信じ愛樂するなり。欲生とは即ち欲望なり。何を欲望するか即ちあみだ佛國なり。あみだ佛國とは一切萬物に超越せる眞理なり。即ち至眞と至善と至美となり。眞善美の靈界最高圓滿の處を神の國或は涅槃界或は淨土といふ。我らが欲望こゝにあり。即ち眞佛のよつぎたらんことを望むなり。すべての物は朽ち壞るゝことあれども眞理の靈界は不變不滅なりといふ圓滿至善の故に報土といふ。

つゝに朽はつべきものは最終の目的とするにたらず。非眞理は眞人の欲望する處にあらず。吾らが欲望は彌陀のあとつぎたらんことなり。これ無上の位置に到達して無窮に神のはたらきを以て所有萬類を攝して救済が爲なり。幸福主義の欲望を満さんが爲に彼國を望むにあらず彼國に生んと欲するも此命終て後はじめて生ずるに非らず此肉體を轉せずして但天然の意志を轉じて彌陀の新生命に入り彌陀大我の中の自己にして彌陀を離れたる個人なるに非

## 六

## 七

ざるを知り此身は彌陀の一切處に周徧せる性能を實現せんが爲の身たるを意識して彌陀の意志實現として行動せば足るのみ。もはや眞實彌陀の眞我の中の我として彌陀の生命の中の生命たるを知りこれによつて行動せばこの精神このまゝ無量壽の分身なり。この命を捨て始めて無量壽國に入をまたず彌陀は目的の爲に我らに法身より此身を分出して人間界に現し出したので眞にこの理を信する時にこの身心本より法身より分出したので而してまた報身の光りと壽とに歸命融合してはじめて眞理が顯はれて來るのである。さればとてこの命終て眞實に淨土なきにあらず。彌陀の眞實は眞實にして此世界の假のものゝ如くにあらず不變不壞にして常住なり。この身の果には眞實在のその眞實妙界に歸入するのでいまは精神が淨土にすみあそぶのであると信すべし。

斷えずあなたの聖旨の實現んやうに聖名を崇めて祈りたてまつらんことを至心信樂欲生我國のむねとす。即ち眞理と愛と望との三徳なり。

この眞望愛の三徳は如來の勅命としてこれを具へざればならぬものなれば能くかへりみて

眞實心なるやみだを信愛するや靈界の欲望いけどかりふかきかをかへりみよ。

是は安心といふて如來の恩籠に對する信仰心には是非とも具へざ

るべからざる必要あり。

乃至十念とは

眞と愛と望との意志によりて一心にあなたの聖旨が自己のこゝろに實現せんことを日夜行住坐臥に祈念して絶ざれば聖旨の實現として内容に顯現して或は光明と現し來りあるひは慈悲のみこゝろとあらはて漸々にすゝみゆけばみだの中の自己なることが諦かに識られてよりは内面に顯現するばかりに止らず口には語となりて現れ眞實語愛語となり身の行爲に現はれては道徳の行爲として菩薩の行となりたるのである。

十念とはあみだ佛の聖徳を表彰する聖名を稱へ聖名によつてあなたの聖旨をうけ聖旨が内心に現はれてはしだいに佛知見開發となり心情には融合安立となり意志には實行となり三業佛の如くの行爲と現はるゝのであり。これを略して乃至十念の起行門といふ。

聖旨を領て信心まことに熟るときは我もなく彼もなく形質はしばらく別々なれども内心は同じく彌陀の一味の海水なればこれを諸上善人とも清淨大海衆とも申すことなり。

願くば聖旨の實現せんことを祈りたてまつらんことを。

### ミオヤの賜を捨る勿れ

時間は寶なりと知るべし。古人云しとあり今日學ばずとも明日あ

りと思ふて明日を樂しむとなかれ。今年つとめずとも來年有りといふことなかれ。今年空しく過るときは來年もまた虚しく經るにいたらん。今日より別に勉むる口なしと思ふて時間を千金よりも重きものぞ知るべし。寸陰を費みてよくつとむる人は後に必ず國の寶といふべき人と成なり。時間の寶が積かさねて尊き人と成得たりしなり。時間を浪費するものはとても世に功を立てべき人なること能はず。寸陰を惜しみて能く學びよくつとめよ。月日は再び復り來るものに非ざればなり。此尊き時間は聖き如來の賜なれば狼に捨ては罪甚だ重し。如來は貴き時間を與えて尊き人を作らんとす。

んための聖慮にましますことゆめ／＼忘るべからず。習より善き人を作る人の心性は神聖なる如來の賜なり。如來は聖き人と爲んが爲に靈性を賦られたり。習慣は第二の天性ともいふて善と惡との反對の性格を作り出すものなり。善き習は靈性を顯發し惡しき習は靈性を覆ひかくし穢らはしき不正なるものなり。此についてはいとけなき時の習はしといと大事なること決して忽がせにすべからず。神聖正義の如來の聖慮にかなうように靈光のなかにありて常につゝしみよくつとめやがて善き習がよき人となりて國家のためにつくし後には眞善美の極なる國に生れて佛の世つぎとならんこと望しけれ。日々三たびよく省みて今日のふるまひ心性を汚さざるや否や今日のつとめは如何にありしやを知る

べし。

### 聖旨の我心に顯れん事を祈り玉へ

聖き名をとなへて聖き旨のわがこゝろのうちにはあらはれんことをいのり候こと思れたまうなかれ。聖きみむねの我こゝろにはあらはるゝよふは如來のみむねは神聖なり智慧なり慈悲なりすべての徳のみたせ玉ふなり。如來の神聖を我こゝろに思へば我こゝろも如來の眞理の光りのなかに良心が自から正しく道徳心となり來るなり。

如來の慈悲が我こゝろにあらはるゝとは慈は樂しみを與へ玉ふこと悲とは若しみを抜き玉ふこと。しかれば如來のみこゝろに顯はるゝ時はたとひこゝろのなやみのなかに自から慰安を與らるゝが故になやみか失て慈によりて自から何となくありがたく身しやくやすらかになり來るなり。こなたの陥りたるこゝろに對しては非常なる勇氣をあたへ玉ふ。

憤怒のおこりし時はなむあみだ佛の御名によりて御むねのあらはれを念するとき大にだめの聲として我胸にあたへ玉ふ。

すべての事としていか成ことにも如來より見玉へば決していらひことはなきものなれば必ず我に安きを與へ玉ふ。

つねによるこびのこゝろを奮起すべし。よしや身にさまざまの苦

難があらうがまゝそのなかに於ても如來の大なる御めぐみをよるこぶことを失ふべからず。

さればとて人の愁を喜ぶにあらず。佗人に對してはすべて同情を有つべし。ますく信念すゝむに随つていか成場合にもうるはしきいろ變らざるよふに如來はなされ玉ふなり。

人は一生の歴史のうちに種々の事を歴て練磨したるものにあらずば完全に精神が發達しまた立派なる道德的意志も出来るものにあらず。随分困難をも經快樂をもいか成ことをも通り越していか成ことにも耐得らるゝ精神となり自から艱難をも經驗してこそ佗人へ同情即ちおもひやりの心も生ずべし。如來の慈悲に安住してぞ耐忍も出来るようになるなり。自からさまゝの苦を經た人は何にしても我まゝになり易き心も鍛へられていか成ることにあふとも精神に於て何にも換がたき御めぐみを得たる身のほごをよろこびてますく信心増進してこそ眞の信仰も道德心も出來得べきなり。人はいか成る苦難多き身なりともそれを苦にせぬほどの信仰心だに出來得るときは決して不幸福にあらず。

なに事も苦にせぬ如きは全く思籠獲得してのことなり。如來はあなたを金剛の信眞實の道德心を成就せしめむ爲にさまゝの機會をあたへ云ふことなるをしかと用意し玉へ。

あなたを苦しめむためにあらずしてあなたの精神の光をあらはさ

んが爲なることを忘れ玉ふなかれ。

百たび火にやかれ千たびうちたゝかれて鍛へあげたる鐵は正宗の名刀として世に珍重せらることをおもひ玉へ。

願くばますく御増進あらんことを。

### 光明に恵まれて

一高尚なる理想。二遠大なる希望。三道德上の制裁。

一高尚なる理想。如來の光明は眞理にしてよく人に高尚なる理想を與ふ。理想とは自分の目的に對する靈的の計畫なり。將來に對する設計の如き例へば我は女として昔の紫式部の獨立志操を全ふせんとか某夫人の如くに美しき家庭を造らんとかいふ如きさて高等なる宗教の光明に上らざる理想は野卑なる世俗的たり。肉のために奴隸となり名利のために屈伏し俗的の氣位は高くとも名利の奴肉の從僕と成ることを免れず。

如來の光明によりて高尚なる理想を有する人はよしや肉の生活は卑くとも心情にいと高き一點の光明は内面に赫耀として侵すべからざるものあり。宇宙最高にありて照せる如來の光明に照らされる己が心情たる理想は高し尙し。平々凡々の金にぬかづき財に拜しすべての名利の奴隸とは天地の懸隔あり。

即ちいわばいける觀音として其胸懷に如來の光明より輝き來る心

情にいと高きいさうるはしきえも言はれぬものを宿すなり。

あみだ佛の聖き光によりて光りかゞやく情のするは活けるくわんせおんなり。

いける観音として如來の聖き光より湧きいづる泉のようにとときよき水を胸懐に流注せしめよ。高尚なる理想は即ち觀世音なり。

いけるばさつよ高き理想の月は其の頭にましくててらすにあらずや。觀世音よその嚴き花は家の庭に咲き其馥はしきを廣き世に薰するここよ。

二遠大なる希望。如來の聖き光りはいかに永遠なるかないかに廣大なるかな。斯みひかりは吾共にかぎりなきまでに希望ををこさしむ。斯靈光によりて吾々に眞善美の極樂の望ををこさしむ。世に極樂の生を怖ふほど遠大なる望みやある。極樂の世つぎたらんをを希望していか成苦難をも忍んで其望を圓かに満足せしは釋迦尊なり。

吾々は釋迦牟尼の教に隨て淨土の世つぎたらんことを望むなり。吾々はミダの本願に乗じて極樂に生せんことを終局の目的とす。

ミダの光明によりて心の更生せんことを一大事とす。

人はかゝる遠大なる希望なしに生活するが故に煩悩の奴隷となり肉慾の満足をもて目的とし終身金錢の爲に魂を奪はれそれ已上の目的なしにあさましき希望のために走使せられて苦樂をな

めて肉慾我慾の二面に於ていづれなりとも目的達したる時には歡びしからざる時は憂ひなやみ終局の目的は肉體と共に消果るものとして明朝死すと思へば今日飲食するにしかじなごゝいふような佛教にいわゆる餓鬼根性に墮落す。

如來は光明によりて吾々に精神上の永遠の生命と無限の道徳に進むべき希望を發さしむ。

其希望とはいかに

信仰の目的は佛陀てふ偉大なる人格となる爲なり。釋尊や觀音の如くなることなり。偉大なる人格と成らんには是非至善に向はなければならぬ。如來の光明を力にして日々歩々に善に向て進みゆくなり。觀音の如き偉大なる聖者と成らんにはいか成艱難も困苦も是が爲に己が精神の磨けることを歡ばねばならぬ。

鐵も火に焼かれうち鍛へらざれば名劍と成ことができぬ故に佛遺教經には若し人が來りて我を罵詈し我を打挫し骨や節が解くるようつも却て之を歡ぶこと甘露を飲が如くに歡ぶものにあらざれば入道智慧の人とはいわれじと説玉へり。

いかにして之を甘んじて忍ばれるとならばそれが爲に精神の徳をうることを歡ぶなり。

人は遠大の希望の中に生活が出来れば肉の幸福よりは道徳の偉大たらんことをねがふ。肉の幸福は動もすれば道徳に反對するこ

とあり。たとへば富貴なる時は傲慢となり。懶惰となり人の苦に對して怒りなき易きが如し。

### 人間界はミオヤの學校である

如來の大なるみめぐみを感謝したてまつる。

聖むねによりて活ける聖なる同胞の幸福をいのり奉る。このごろいかにおひぐらしなされませるや。

聖なるみおやはかぎりなき愛をもてごしへにまもり玉ふことをわすれませぬか。

そのうちにはしばらく御目もじをえすうち過し居り候へども定めて御恵ぐみのなかにます。聖きころのいやましぬることならんとはるかに存じあげ候。

教主世尊即ちしやかか如來はみころがごしへに靈ましますばおもひ内にあれば自づから面にあなはれていつもうるはしき相にましますし如くしやかむに佛の御ころろに高きあみだ如來の聖靈つねにましますばなり。

そのごどくにしやかむに佛を御手本としていかなるばあいにも麗しき色をかえざるようになりませうか。如來の聖靈がこのころろに雖るゝ時はむねのうちが浅ましくいやしくなりよしなきごどにころろをなやめおもひをわづらはしましたはかなしみまたう

かくと日を暮らす様をあらして一口一夜八億四千念のおもひはみな三惡道のたねをまくことになりませう。

それと反對に如來のみむねを蒙り御名をとなへ御慈悲のなかにひぐらしする身は

如來の靈つねに我心のうちにましますばたとひ外よりなにごとがあらうがまよそのなかに心も平和にてあればいかなるばあいにもうるはしきいろがかわらぬようになりませう。

ねがわくばいけるぼさつとしてまた世のもほんともなるよふに御修行のほどこれいのり候

いつぞやと同じよふにくりかへすかは存じませぬが天地萬物と共にこの身のいのちもみな法身如來のたまものとしてそのみちからとみめぐみによりて活けるものとすれば全躰如來は何の爲にこの身をいかし玉ふのでありませう。また我は何の爲にいきて居るのでありませう。この活ける目的は何の爲でありませう。

如來はみ親にしてわれをいかし玉ふ親は子どもの爲に日々のかてをあたへ着物をもきせて子どもに教育をもするのは何の爲でありませう私の子は落だいしようともまたいか成ならずものにならうとも日々のかてさへあたえて居ればその他には一向に子どもの爲に目的はありませぬといふような親がありませうか。恐らくなからうとおもふ。親の子に對する要求はごふかよき人にしよき神

をもて立派な人物にもならせたとの心から日々のかてもまたは年々の衣物も興へて育つるのであるとおもふ。それと同じく如來をやは私どもに日々のかて年々の衣物も天地の間にできるよふにして私どもなる子どもにべんどうを興え下さるのは五十年六十年間の人間てふ學校にて精神のうちに聖なる徳をやしなひて私どもをみおやのよつぎたるきよきみくにのぼるこのできるよふにとの目的によりてかてをあたへ玉ふのでありませう。人間界は聖なるこゝろをやしなふ學校でありますぞ。この聖なる徳をやしなふにはいかゞして養ひませうとならばつねに如來の聖きみむねがわがこゝろにあらはれんよふにいのりていか成ることができてもそのなかに於てやしなふのであります。よしや他人が我をそしらばこれによりてわが心のみがゝれることゝして心を鍛錬しすべての苦しきもみな一心をきたゆる爲と存じて修行のすゝみゆくのであります。

如來はいつもこのこゝろをしけんしてましませばいつもなるべくらくだいでぬよふに御修養こそ肝心にて候。この世界に出て來たるは遊びに來るにはあらで修行の爲にであります。しかればいかに成困難なることもこれにうちかつ修行をせばやとて如來のみめぐみを力としてからはじめのほどは修行が未熟にてあればこそ困難に感ずるなれ、ついに熟するときは安く忍ばれるよふに成りま

す。人間は形ちの上の幸福は眞の福にてはありませぬ。心に於て受くる福こそまことの幸福であります。かたちの幸福は却て道徳の爲にやゝもすれば損害をまねきます。

慈悲 歡善 正義 安忍 謙遜 勤勉

などのすべての徳をもて精神を莊嚴よふにするのが人間のうつくしいのであります。

永却に不朽の光となるのであります。それもやはり如來のみめぐみによりてとげらるゝのであります故に

聖きみ名をとなへてみむねのつねにあらはれんよふにいのりませよ。

みむねのあはれをいのは

御名をとなへてあなたの尊き思召がわがこゝろのうちに想はれてくる時はわがこゝろがきよらかにやすらかにありがたくとうとううれしくよろこばしくよく心がひろくあかるくうつくしくなるのであります。

如來のおこゝろをわすれて居る時は淺ましき自分ながらはづかし

いよふにこゝろにうづまりて居るのであります。が如來の聖旨をわが想にうかぶ時は雲間よりさやかにてりわたる月の面のあらはれしごとくに心がはれわたたりて來るのであります。きみよ。この日々はきよきみむねによりて修行のために活つゝあることをわすれ



玉ふな。如來さまは御身のかたちの上の幸福のみをもて御めぐみ下れたものではありませぬよ。あなたのこゝろのとりよふにて不幸も幸福と轉じ來ります。

如來さまより御あつかりましたる御子さんを聖旨にかなふよふに御めぐみなされませ。其が御禮であります。かたちの大切なるはよき精神が宿りて居るからであります。精神は如來より御あづかり申たのであります。

村のすべての婦人たちは同じく如來より御あづかり申たる子ごもたちのたましを種々にぞだつるのでありませう。御子さんを村で道徳上第一の人におそだてなされよ。如來さまえのおつかへ申上の第一であります。

また如來の聖旨をうけたる婦人の模範として夫に仕ふることを希がふ。願くばいけるくわんせをんとしてはたらかれんことをこそそそまされ。

### 佛心ご煩惱心ごは如何ご云ふ

#### お尋ねに答へ

佛心とは一切等にして彼我の差別なき心。

煩惱心とは四大假和合の身を我身なりこおもひ受想行識を我本心なりと思ひ苦樂を共にする心を申す。

曾て煩惱心と佛心との區別に付御答辨の御書披見候理論としては御意見の通りにて宜敷候已に光明を得たる上は佛心が自己の本領にて煩惱心は本領を忘れたるより起る魔物なれば此魔の爲に横領せられぬように常に光明名號を念じ念々光明現前する時は佛心が常となり光明の生活を得べし。

清淨なる光明の念是自己の本心歡喜なる光明の心是自己の本領智恵光明の念是我本心不斷光明の念是我本性此光明の念をはなれて念々煩惱と相應するは未だ如來の大信得ざればなり如來の大信は我心即ち如來心如來心即我大信。

如來心をはなれて我心なきは是大信心なり  
古人がとなうれば佛も我もなかりけりなむあみだ佛の聲ばかりして  
本來の我名とすればうれしけれなむあみだ佛の聲きくときは

### 信心の月影こよひは何日頃に候や

秋風はすゞしくすだくむしの音もいとあはれに今年の秋もはや半ばすでにくらし實に惟みれば光陰の過ゆくことはやくたゞ時光のみ空しくくらし道業の運ぶことはいつもすゝみやらで日々御わびのなかに口を明し候。

さて口外の是心作佛の案に對し御修養の結果を御しるしに相成候

披見仕候。日々に身の行爲と口の言語と意の思想とに於てみひかりを業の上に現はすことゝのこと、修養日につみ心行いよく進むどきはたとへは新月一日より三日まで口々に光を増す如く敢て問ふ君よ、あなたが始めて如來の眞理を聞なされし時は如來の光明は是いかなるものなりしかを未だ曾て經驗せざりしなれば定めて此眞理のことにつきては晦日の夜の如くにて我精神中に月いづれにありやまた無や、有や無やのなかにこれをぞと目ざす處だになかりしことに候はん。其頃はひと今日とを比較する時はいかに今宵は已に月は何日頃ほどに相成候ように感じられ候や。

さて念佛心と煩惱心とは其比較いか成ものゝように觀じられ候哉此兩念を諦かに觀察してますく闇黒をさりて白光に進まれんことを御すゝめ候

きよき同胞たる君よ

涼しき風は秋の氣をもよほし海潮の聲は梵音いと朗らかなる今宵心を静めて我は西の空はるかなるそなたに思をめぐらして觀すれば我理想中に浮べるいける觀世音ぼさつは百福の莊嚴はおごそかにかゞやくごとくにして其ぼさつの心の中には眞如の月さやかにして彌陀の光明永しなへに照しつゝあるように想はれて候其光に充されつゝある胸のうちには五塵六欲のけがれもなく煩惱のほのほはかげだにもなきように觀しられて候得とも現實なる君にはい

かゞ在らせ玉ふ哉全くこなたの理想に浮ばるゝようにおはせしやみな人の理想に觀しらるゝごとくには現實の血のめぐりつゝある間は行べき筈はなかるべしとは存じ候へどもそれでも我理想にしのばるゝいけるぼさつは血や肉までも如來のじひにみたさるゝようにおもはれて候。さて女ぼさつよぼさつは血と肉を以て其中に如來の心光照わたるなり。

煩惱心と如來心と併存するなり煩惱心如來心より深きは下地のぼさつなり。

如來心煩惱心よりつよきは上地の丈夫なり。日々この兩方の心を比べ觀じてますく如來光明心が其觀念中に多ならんことを希ふ尙其心光を身の行爲に現はれんことを望む。秋九月八日の夜清き同胞へ。

### 衣裡の寶珠

量りなき光りはかつて照らせしもしらで久しく年を経にけりさて眞理の源なる法身無量光の本覺眞如の光明は無始より已來本然として永しへに普く十方法界を照らして到らぬ隈もなかりしを我ら衆生本覺の日輪の中に在りながら無明に戸ざれむば玉のくらき闇夜に生死の夢をむさぼりて五塵六欲貪瞋煩惱を以て全く我と謂たりき。迷の我をもつて實の我と謂ひ本來我性を知らず我心

は只煩惱のやどり、また三寸の胸中是全く我と執し有や無やのなかに葬られ本覺の我本來の自性は未だ曾て夢にだも見しことなかりき。

本覺のミオヤ無量光の分身たる我なれば我心靈の光本より法界に照しわたるとは幻しにだも見たることなかりき。無量光の此一分たる我心靈にしあれば我心靈を開發し來りて觀するときは我心宇宙に周遍しぬれども我心靈の本源たる大ミオヤを知らざるほどは一切衆生悉く心靈同一の本源にして皆同胞の眞理を覺らざるからはいかにして同胞と名乗ることを得べきぞ。

聖き同胞なるきみよあなたがたが御召なされし衣の中寶珠を開き見しに燦然と光り輝くを發見したるときはうれしさよはじめて同胞と名乗ることを得たる我よるこばしさよ。本來の心をさとり來りて初めて本覺の父に拜顔せしことの出たさよ。

あなたの心の光りは普ねくいづこにも照らさぬ處もなきなれば照しわたるあなたの心はたとひ千重の雲百重の山をへだつとも何かは礙ぎるものかある。

## 不退轉

またも世にはふ言葉はなからむ無量光壽の御名の外には如來無量壽の中に安住する身には去るも來るもなく常住安穩の安

心には候へどもしばらく此四大の身はかりのやどり日月めぐりめぐりて明ぬる年をば四十四年とはなりにけらし。同じく如來の光明のなかにさらに改まりしこのよろこばしさめでたく御祝申上候今年は亥とし猪てふものは只すゝむことをしりて退くことを知らずと聞ならく。されば我佛道に志すものゝ爲にはよき年にて候即ち梵語アビパツチこちらに不退轉といふ。不退轉に位不退と行不退と念不退と處不退との四位あり。位不退とは位どは即ち一度自性の眞理を信認したる上には退轉せぬことなり。即ち如來の光明をたしかに信認したる上はたとへば一旦鍊出したる金は泥の中に埋没すとも金の性は變せざる如く一度如來の光明を得たる精神はたとひ煩惱泥中にあるながらも其精神に赫耀たる處の心光はくりますること能はずいか成事情の爲にも精神に照しわたる如來の光明は決して退くべきものにあらす之を位不退と云ふ。

行不退とは如來の光明を行の上には現はすことなり是は先の位不退にくらぶれば一段すゝみたる位にしてよほど修行の功を積まざればかたきことである。いかにさなれば人或時は其行の上に於て全く如來の光明を現すことが出來うるけれども或場合には退くことがある。先の位不退は精神に認めたる光明は決してまた信を失ふようなことがなければ光明を實行に現はすといふことは立派に行に現はすこともあればまたそうゆかぬこともあるなれども如來

を力にしてすゝむ時は何分かつゝをすゝみて身と口と意との行爲に光明を現はすことに成り申べく候。

且つ稱名の行位が退轉せざれば自から行不退とは成りぬべし。

猪武者のよこひら見すに一心に一向に如來の光明によりてすゝむ時は必ず如來の大法身によりて光明によりてすゝめ玉はんことなりと信じて而して今年は猪のように光明の中に専心にすゝむことにせまほしく候。

### ミオヤの慈悲にうちまかせて

いけば念佛の功つもり死なば淨土にまいりなん甞てもかくても此身にはおもひわづらうことぞなきとの御言の意は

たゞ大ミオヤの御慈悲にうちまかせてたごへ病のために身はせめらるゝとも心だに大ミオヤの慈悲の懐のなかに安住せられなば餘の事は兎にも角にもにて候。

實に頼みがたきは有爲の世期しがたきは四大假和の身また五六日前には法會に來りて盛に説教したりし僧が昨日は腦溢血にて忽ちに黄泉の旅路に立よくなこと健康とても頼みならずまことにおくれ先だつ世の習ひしかながらあなたが先なるかまたいま健康といふ私が先なるか決して自分の計らひにゆくものならずたゞたゞ大ミオヤに一任し奉るのみ。

此土一日一夜の辛抱は淨土に於て百歳するよりも勝れたり。百歳の功よりも勝たる一日一夜なれば苦しなからも如來を離れぬよりに稱名し候ことを御すゝめ申候。ならくがに久しくうけむ苦しみをすくいかへてけふのいたつき無始より積もりし罪にくらぶればいかに輕きぞけふの病は

かぎりなくならくに落るつみとがをはたさん爲やけふのくるしみ

### 念佛 念法 念僧

念佛救世大慈父とて如來は我々衆生の爲に大悲のをやさまである若しもミオヤの慈悲を以て子を愛念するの思召なかりせば子はいかにして常没流轉の中を出ることができませう。

人類にしても親の慈悲てふものなかりせばいかにして子どもは成人できませう。親の子を愛する深きより子の啼をもまたいかなることでもないとはず兩便の不淨をも敢て苦にせずして育てるは是只慈悲心あればである。そのことは實に自分勝手にあさましき此凡夫をまた心のけがらはしき我々を却てあはれみことに愛してあさましき子どもが親のもとをにげ出して自から三惡道に入るべきをも飽までたすけんとの親心である世間にも親は子をおもへども子はさまでに親をおもはず。

念佛とはかくまで慈悲ふかきおやさまを心に記憶して忘れまじき

このころなり。

念法とは法とは軌持の義として自然のきまりを云ふ。たとへば火は物を焼水はうるほすなどは是きまりなり。

佛を衆生が念すれば其念の中に佛が感じ來るは法である。天の月が水に感應することく佛を念すれば佛が我心に感應するまた梅をおもへば舌が自然に濕も自然の法である。佛を念すれば恩寵のありがたく感ずる自然の理なりすべて理のとほりを法といふ。

たとへ佛が在しても衆生の信仰に應ずる自然の理法がなかつたらば衆生が佛に成ることは出來ず。自然の法があればこそ念佛三昧の法が最も法中の王である。その法をおもふて忘るゝなどいふことを念法と申候。

念僧とは僧は和合として佛と法とを以て我心として居る人のことにて生たまゝの心は普通の人間である前の心をすて佛といふ親子となりし心に生れ更り法を以て我心とする人である。

たとひ佛と法はありても其佛と法とを維持して人に傳へる人がなくては此すくひにあづかることが出來ぬ故に我に法をさづけて我に道の心を發さして呉し恩人であるから常に忘れぬといふが即ち念僧と申候。

佛は十方三世諸佛數多ましませども大本は只一人のあみだ如來分身が十方諸佛にてまします故に一人のあみだ如來を念じ奉らば十

方の一切諸佛も同時に念すると同じ利益なり。

法に世法佛法とて佛法とは衆生を佛にする法である無量の法門はあれどもつまり我を佛にして呉るを要とすれば大悲のおやさまから私どもを助け下さる念佛の法がひとり大事である此念佛三昧ひとつにて我が佛に成ることが出來る故我のためには念佛三昧の法を最と一に大切と申候しからば一切の萬法は自然に其法の中にをさまりて居るなり。

### 南無阿彌陀佛

大正十一年一月三十一日發行

一ヶ年前金郵税共一圓二十錢 隔月發行

編輯兼發行人 岩 品 誠 信

印刷人 秋 場 熊 太 郎

發行所 ミオヤのひかり社

振替東京四九三四八番